

C O R R E N T E

Centro Culturale Italo-Giapponese

* フィレンツェで美術鑑賞の一日 *

深草 真由子

六月の下旬、ボローニャに滞在することがあったので、これはいいチャンスと思って久しぶりにフィレンツェを訪れた。ボローニャからフィレンツェまでは全席予約制の高速列車に乗って、たったの30分。それとかなりの頻度で電車がある。肉料理とジェラートの美味しさ、そして大学都市らしい活気ある雰囲気が魅力的なボローニャだが、こんなふうに電車でいろいろな場所に日帰り旅行できるのもこの街のいいところである。

しかしその日は広く西ヨーロッパを熱波が襲っていた時期にあたり、天気予報によるとフィレンツェの最高気温はなんと38度。とはいえ、記録的な暑さであろうとなかろうと、蒸し暑いであろうことは予想していたので、冷房の効いた屋内で一日を過ごそうと、メディチ・リッカルディ宮とウッフィーツィ美術館のチケットを事前に購入しておいた。ところが実際に行ってみるとウッフィーツィの館内は、人が多いせいもあるのだろうが、サウナのような状態で、へとへとに疲れてしまった(翌日、美術館の冷房施設が故障しているために、当日券の販売が見合されているという報道があった)。おまけに、一年ぶりにおろしたサンダルのせいで右足にも左足にも靴ずれができ、汗で絆創膏もくっつかず、足を引きずりながらボローニャに戻ってきた。

さて、フィレンツェで最初に向かったメディチ・リッカルディ宮であるが、これはその名が示す通り、もとはメディチ家の宮殿で、1457年に完成したものであり、十七世紀になってリッカルディ家の手

にわたった。やはりメディチ家ゆかりの教会であるサン・ロレンツォ教会のすぐ近く、観光客の多いゾーンに位置しているが、建物の中にまで入っていく人はそう多くない。銀行業で成功した大富豪で、花の都フィレンツェの実質的な支配者だったメディチ家の邸宅にしては飾り気のない無骨な外観で、内部も美しく整ってはいるものの、意外とシンプルだなあという印象を受けた。

例外は二階にある小さな礼拝堂で、こちらは壁、天井、床、すべてがみごとに装飾されている。なかでも素晴らしいのは、ベノツォ・ゴッツォリによるフレスコ画 *Cavalcata dei Magi*『東方三博士の騎馬行列』である。東方三博士というのは、誕生したばかりのイエスを拝むため、星を追いつながら東方からベツレヘムにやってきた賢人たちのことである。絵画では、三博士が聖家族を訪ねているシーンを描いた作品が多いように思う。それに対してベノツォ・ゴッツォリのフレスコ画は、賢人たちのベツレヘムまでの旅のようすを描いたものである。制作時期は1459年から62年までということなので、フィレンツェで「祖国の父」とも呼ばれるコジモ・デ・メディチがメディチ家の当主だった頃のものである。

メディチ・リッカルディ宮のブックショップで買った Cardini 氏の本によると、三人の賢人のうち、不死のシンボルである没薬をイエスにささげる者は医師の守護者とされているという。イタリア語で医師は、単数形が「メディコ」、複数形が「メディチ」であるため、メディチ家にとって東方三博士は特別

な存在だったらしい。



【コジモ・デ・メディチ（ポントルモ作、ウッフィーツィ美術館）】

出典元：https://it.wikipedia.org/wiki/Cosimo_de%27_Medici

三博士は前方から順に白髪の老人、壮年期の男、そしてまだ幼さの残る若者として描かれ、それらはそれぞれ、コンスタンティノープル総主教ヨセフス（Cardini 氏によると、神聖ローマ皇帝ジグスムントだという説もある）、東ローマ帝国の皇帝ヨハネス八世パレオロゴス、そしてロレンツォ・イル・マニフィコの肖像でもある。最初の二人は、コジモがフィレンツェに招き寄せた公会議に出席した要人である。この公会議は東西教会の統一を図る目的で行われたものだが、ビザンツで行われていた古代ギリシア文化研究の成果をイタリアにもたらす機会ともなり、フィレンツェにおけるルネサンスの開花をうながしたとされる。しかしビザンツ帝国自体は 1453 年にオスマン帝国に滅ぼされているから、ペノツォ・ゴッツオリがこのフレスコ画を描いていた頃にはもうすでに過去の栄光になっていた。

そして三人目の凛とした顔だちの若者ロレンツォはコジモの孫である。ロレンツォが当主になる頃のメディチ家がさらに繁栄しているようにというコジモの願いが込められているのだろうか。フレスコ画の中では、ロレンツォを追うようにしてコジ

モ自身とその息子ピエロがおり、これらメディチ家の三代当主に従うグループの中にミラノ公とリミニの領主の姿もある。

メディチ家礼拝堂の中にいると、この小さな空間だけ当時から時間が止まっているのではないかと思うような不思議な感覚になった。



【ロレンツォ・イル・マニフィコ

（ペノツォ・ゴッツオリ作、『東方三博士の騎馬行列』より）】

出典元：https://it.wikipedia.org/wiki/Lorenzo_de%27_Medici

メディチ・リッカルディ宮を出たのはお昼時だった。道には観光客を誘うビステッカ・フィオレンティーナの看板がいくつも出ているが、こちらは急いでウッフィーツィ美術館へと向かった。ここではやっぱり、長蛇の列ができています。入場予約しておいたから自分は大丈夫だと思ったが、その長蛇の列は予約した人たちの列だったので驚いた。館内もやはり混雑していて、一つの展示室から次の展示室に移動するのに並び、美術館の原形である、ラ・トリブーナと呼ばれる部屋を外から覗きみるためにまた並び…。7月、8月のハイシーズンにはどうなっていることかと思いやられるほどの込み具合だった。

ウッフィーツィ美術館は、それとアルノ川の向こう側にあるピッティ宮殿をつなぐ「ヴァザーリの回廊」の入り口にもなっている。回廊はこれまで一度も訪れたことがないので、どんなものか見てみた

い気持ちはあったが、美術館にいることのできる時間が限られてしまうため今回はあきらめた。

フィレンツェの駅で買った Fossi 氏による小さな画集には、ウッフィーツィ美術館は近代ヨーロッパで最初の美術館であり、その起源は 1581 年にさかのぼる、とある。1492 年にロレンツォが亡くなったあと、メディチ家はフィレンツェから二度追放されるがそのたびに復帰し、最終的には、傍系の出ではあるものの「祖国の父」コジモの名を引き継ぐコジモ一世がフィレンツェ公国、つづいてトスカーナ大公国に君臨した。そのコジモ一世が、現在美術館として使われている建物の建造をジョルジョ・ヴァザーリに依頼したのは 1560 年である。



【コジモ一世(ブロンズーノ作、ウッフィーツィ美術館)】

出典元: https://it.wikipedia.org/wiki/Cosimo_I_de%27_Medici

美術館の起源は十六世紀後半にあるとはいえ、展示されている絵画作品はそれより前の時代のものも数多い。入館してまず一番に見ることになるのが、ジョット作の煌びやかな『オンニッサンティの聖母』(1310年)で、それを囲むように、中世のトスカーナの宗教画を展示する部屋がいくつかある。

彫刻作品にはさらに昔の、古代ローマ時代のものもある。ウッフィーツィ美術館に来ていちばん嬉しかったサプライズは、『ニオベー』に再会できたことだった。大理石でできた数体の彫刻からなる

この作品、「どうも見覚えがあるなあ」と思ったら、ちょうど一年ほど前に、ローマのメディチ荘の庭園で見たものと同じだったのである。メディチ荘は、スペイン広場の階段を上ったところにある、ピンチョの丘という見晴らしの良い高台に立つメディチ家の別荘で、第三代トスカーナ大公フェルディナンド・デ・メディチが枢機卿だった頃のものである。1583 年、ローマで発見された『ニオベー』は、フェルディナンドによって購入されメディチ荘の庭園に飾られたが、のちにウッフィーツィに運ばれた。ローマで昨年見たものは、その時は知らなかったが、レプリカだったというわけだ。

一度ローマで見て印象に残り、ウッフィーツィ美術館でふたたびお目にかかれたもう一つのは、グロテスク様式の装飾である。古代ローマを起源とする、壁などに描かれた模様で、コロッセオの近くにあるネロ帝の黄金宮殿ドムス・アウレアで 1480 年に発見されて、ラファエッロらルネサンス時代の芸術家を魅了した。グロテスクと呼ばれるようになったのは、ドムス・アウレアがその当時、何世紀ものあいだ地下に埋もれていたためにグロッタ(「洞窟」の意味)のようだったからである。ウッフィーツィでは、廊下の天井がこのグロテスク装飾で彩られていて、見学に疲れ、いすに腰掛けて休憩しているあいだも、目を楽しませてくれた。

ウッフィーツィといえば、ボッティチェッリの『春』と『ヴィーナスの誕生』である。しかし絵画だけでなく、これら彫刻のコレクションや天井のグロテスク装飾からも、メディチ家のメンバーや芸術家たちが、古代というはるか遠い世界へ抱きつづけた憧れが伝わってくる。

ウッフィーツィ美術館はまたいつか、ゆっくり時間をかけて訪れることができればと思っている。そのときには「ヴァザーリの回廊」にもぜひ足を運んでみたい。

<参考>

F. Cardini, *I re Magi di Benozzo a Palazzo Medici*, Mandragora, Firenze, 2022.

G. Fossi, *Uffizi. Arte, storia, collezioni*, Giunti, Firenze, 2014.

(元当館スタッフ)

* 実用イタリア語検定のススメ *

杉 栄子

中学や高校で英語を勉強し英検を受けたことがあるという人はたくさんいるのではないのでしょうか。私も当時の先生から勧められ何度か受験しました。検定対策として過去問題を延々と解いていく授業があったなあと覚えています。

実はイタリア語にも検定試験があり、毎年2回実施されています。正式名称は実用イタリア語検定(略して伊検)といい、1995年から始まりました。第1回から第58回(2024年)までの受験者の合計は約10万5千人と、とても少ないです。ちなみに英検の受験者は2024年の1年間だけで450万人(!)と桁違いに多いです。中学、高校、大学での英語学習がほぼ必須ですから、受験者の8割は学生です。一方イタリア語では、10代・20代の受験者は3割程度で、40代・50代の熟年層が4割近くを占めています。伊検では毎回受験者にアンケートをとって、イタリア語を学習する理由を尋ねていますが、「イタリア語が好きだから」という回答が最も多く、次いで「イタリアの文化が好きだから」、そして「旅行したいから」「外国の人とコミュニケーションをとりたいから」と続きます。学業や仕事のためという実利的な理由は全体の14%に留まり、それ以外の動機が圧倒的に多いことが特徴となっています。

言い換えれば、イタリア語はどちらかというと趣味として学習する人が多く、趣味であるので検定試験を受けたいと思うほどではない、という人も多いのではないのでしょうか。しかも安くはない検定料を払って不合格になる可能性もあるのですから、ハードルが高いと感じられるのも想像できます。ちなみに私は1級を持っていますが合格するまで5回落ちました。

では伊検はどのような構成で実施されているのでしょうか。英検と同じくレベル分けがあり、最も初歩的な5級から、4級、3級、準2級、2級、そして通訳が出来るとされる1級まで全部で6つの

段階があります。全レベルに共通しているのは、リスニング問題と文法・語彙・長文読解問題です。

リスニング問題は、イタリア語の会話や説明文が音声で流れるので、それを聞いて質問に答える形式です。解答方法は複数の選択肢から適切な答えを選ぶ択一式です。選択肢はイラストもしくはイタリア語で示されています。会話や説明文の音声は2回流れますが、質問は最後に1回だけしか聞くことが出来ません。つまり、先に質問の内容がわかっていれば、その点に集中して聞くという対策が出来ますが、それが出来ないようになっています。ヤマをはるのではなく、音声の内容を全体的に聞き取り理解することが求められているのでしょう。私も経験ありますが、一つ単語が聞き取れなかったり、意味がわからないものがあったりすると、そこで意識が引っかかってしまって、その後の音声が全く聞き取れなくなるといったことがあります。これの対策としては、イタリア語を聞き慣れるしかないと思います。今は音声教材が付いているテキストがたくさんありますから、それらを使って何度も聞くことは言うまでもなく、自分でも発音してみることが非常に大切です。自分でイタリア語を口に出してみることで、代名詞や、冠詞や、前置詞など、一音節のみの単語が、その前後の単語と切れ目なくひと繋ぎに発音されていることを体感できると思います。



【検定対策の定番参考書たち】

次に文法・語彙・長文読解問題です。こちらも複数の選択肢から解答を選ぶ択一式です。文法・語彙問題は、短いイタリア語の文章に空欄が設定されているので、そこに入れるのに適切な単語や表現を選びます。文法問題では、名詞の性・数から始まり、定冠詞・不定冠詞の使い分け、動詞の活用、形容詞の変化、代名詞の区別、副詞と形容詞の区別、疑問詞や接続詞の使い方など、文法のルールをしっかり勉強しておけば対応出来ますが、難しいのは語彙問題です。というのも、そのものずばりの語彙や定型表現を知らないと答えられないからです。もちろん、5級や4級では日常的によく使われる表現が出題されるわけですが、日常といっても非常に幅広いので、自分が知っている語彙が出るかどうか運任せなところがあります。例えば、せめて5級や4級レベルでは、AというテキストのXページまで、というふうに範囲を指定してもらえたら、試験勉強がしやすくなるのでは・・・と思ったりします。

さて次に長文読解問題ですが、イタリア語で書かれた、ある程度まとまった長さの文章を読んで、その後の質問に答えるという形式です。5級・4級で取り上げられる内容は、自分や家族の紹介や、友人への手紙、日々の習慣についてなど、身近な話題が多く、使われている動詞の時制もほぼ現在、近過去、半過去と限られています。レベルが上がると、社会事情や歴史上の出来事、ニュース記事、ある習慣や伝統の由来など、テーマが大きく広がり、動詞の活用も一気に増え、語彙はより専門的に、構文はより複雑になっていきます。長文読解の対策はやはり読み慣れることですが、最初は時間がかかってもいいので、正確に読む練習をすることが大切です。英語はまず主語があってその次に動詞が来るというように、語順がしっかり固定されていますが、イタリア語は必ずしも主語が動詞の前にあるわけではなく、後ろにあることもあれば、主語が明らかな場合は省略されます。まずは動詞を見つけ、活用を把握し、主語を特定するという作業を繰り返すことで、イタリア語を正確に読む癖が身につくと思います。長文読解の問題は二択形式です。長文の後に短い文章が提示されますので、それぞれについて長文の内容と同じであるか違っているかを答えます。

ここまでは全レベルに共通の問題形式でした。ここからはより上位の3級から1級までの4レベルで出題される作文問題について説明したいと思います。設定されたテーマに従って、イタリア語で文章を作って解答する記述形式です。3級ではイラストが一枚示され、それについて記述しなさいというパターンが多くなっています。内容は日常の一場面であることが多く、例えば人がたくさんいる広場のイラストであれば、中央に噴水がある、そこに何人かが腰掛けている、そのうちの1人は新聞を読んでいる、とイラスト上に描かれているものを説明していくという具合です。動詞の時制は現在形を使用することがほとんどです。

準2級になると、ある人物の一日やバカンスをどう過ごしたかなどについて、複数のイラストがコマ割り状態で時系列に並べられていることが多いです。それに沿って、〇〇は～時に起きた、雨の中仕事へ行った、昼食は～を食べた、という具合に説明をしていきます。過去時制を使って出来事を物語ることが求められている問題です。



【第 63 回実用イタリア語検定ポスター】

さて 2 級になると、文章でテーマの指示があります。イラストで見えているものを説明するのはなく、例えば「忘れられない体験について」「余

暇をどう過ごすのが好きか」「イタリア人観光客に自国の面白いと思うものを説明せよ」など、自分の体験や考えを述べるものが多くなります。もちろん問題の指示文もイタリア語ですので、何がテーマなのかを読んで理解する力も必要なのは言うまでもありません。

1 級の作文も 2 級と同じくイタリア語でテーマの指示がありますが、例えば「あなたが考える人工知能の可能性と限界とは」「たくさんの動物や植物が絶滅の危機にある今、自然や生物に対して何を感じるか」のように、より専門的で社会的なテーマになります。普段から様々なテーマに関して、自分ならどう思うかを考えイタリア語にする練習をするのが良いでしょう。

イタリア語は大人になってから学習を始めたという人がほとんどですので、当然ながら母国語の日本語は堪能で、複雑で高度な日本語を扱うことが出来ます。それをそのままイタリア語で言いたいという気持ちはよく分かるのですが、残念ながらそううまくいきません。まずは訳したい日本語を、主語と述語が一つずつの単文に言い換え、それをイタリア語にする練習から始めるのが良いと思います。簡単でシンプルな構造のイタリア語文を作れるようになれば、徐々に複雑な文章へレベルアップすることが出来ます。

以上が筆記試験の概要です。リスニング、文法・語彙・長文、作文の3つのパートそれぞれに合格基準点が設定されているので、それらをクリアしつつ、合計の合格基準点も超える必要があります。リスニングが苦手な分を作文で稼ぐというようなことは出来ません。また、リスニングと文法・語彙・長文は合格点だったが作文の点数が足りなかったという場合に、その次の試験で作文だけを受験するという方法も認められていません。

これに加えて、2 級と 1 級では筆記試験に合格した人を対象に、二次試験としてイタリア語での口頭試問が行われます。試験の最初に複数のテーマが提示されます。例えば「アニメ映画ブーム」「家と余暇」「料理の過去と現在」などです。これらの中から一つを選べと、それに関連する参考資料(イタリア語)が渡されます。それを読んでも読まなくてもいいので、選んだテーマに関する自分の考えをまとめます。15 分間の準備時間が終わ

ると、面接官がいる別室へ移動します。簡単な自己紹介をしてから選んだテーマを伝え、まとめた考えをイタリア語で述べます。今度はその内容について面接官が質問をし、それに答えていくというやり取りが 15 分程度です。二次試験のみの合格率は公表されていないのでわかりませんが、合格点は 40 点満点中 6 割の 24 点と設定されているので、筆記試験ほど狭き門ではないのではと思います。

以上が伊検の概要ですが、合格するには、正確な文法知識、豊富な語彙量、それらを適切に運用する力が求められます。正直なところ、文法を間違っている、とにかく単語を並べて身振り手振りしながら話せば、イタリア人とコミュニケーションをとることは出来ます。しかしブローケンではないイタリア語、きちんとしたイタリア語を使えるようになることを目指すならば、伊検を受けることはとても良い勉強の機会となると思います。



【フィレンツェのヴェッキオ宮殿】

＜参考＞[伊検]実用イタリア語検定試験公式サイト
<https://www.iken.gr.jp>

(当館語学講師)

編集・発行 / (公財) 日本イタリア会館
〒606-8302 京都市左京区吉田牛の宮町 4
TEL: (075) 761-4356/FAX: (075) 761-4357
E-mail: centro@italiakaikan.jp
URL: <http://italiakaikan.jp/>